

木づかいで始まる脱炭素社会 ～日本の森は「使う」時代へ



# Sustainable Forest Symposium 2022

## 木づかいシンポジウム 2022

### 終了報告書

2023年3月28日

木づかいシンポジウム2022 主催 事務局 高橋 ひかり

# 目次

コンセプト	3	【パネル6】木造化を進める技術～ 素材と工法・構法、そして材供給	25
開催概要	4	【パネル6】登壇者プロフィール	26
シンポジウムのタイムスケジュール	5	【パネル7】木づかいベンチャー特集～新たなビジネスモデルと技術	27
会場図	6	【パネル7】登壇者プロフィール	28
開催規模と来場者数	7	閉会のご挨拶	29
登壇者一覧	8	モデレーターと総合司会	30
開会式	10	ネットワーキングパーティ	31
基調講演1 国産材の大きな需要創出と林業再生	11	当日の様子	32
基調講演2 木材利用推進に向けた機運の高まり	12	来場プロモーション	33
【パネル1】中高層ビルの木造化木質化～SDGs時代を築く建築	13	ダイジェストムービーの配信	34
【パネル1】登壇者プロフィール	14	来場者分析	35
基調講演3 材業と木材利用：地方創生	15	来場者アンケート	39
【パネル2】木づかいとまちづくり～都市と中山間地域	16	サイドイベントの開催	45
【パネル2】登壇者プロフィール	17	サイドイベント第一弾	46
基調講演4 官民連携で木材需要の呼び込みと川上連携(ビデオメッセージ)	18	サイドイベント第二弾	47
【パネル3】木造化ラブコール～施主と消費者の“木”への渴望	19	サイドイベント第三弾	48
【パネル3】登壇者プロフィール	20	サイドイベント登壇者プロフィール1	49
【パネル4】投資と木づかい～森林と木造建築の投資価値	21	サイドイベント登壇者プロフィール2	50
【パネル4】登壇者プロフィール	22	なぜ人は「木」をえらぶの？木づかい促進ムービーの制作	51
【パネル5】木材サプライチェーンマネジメント～地域活性と安定供給	23	裏表紙	52
【パネル5】登壇者プロフィール	24		

# コンセプト

## 【木づかいで始まる脱炭素社会 日本の森は「使う」時代へ～】

日本の森林は戦後に植栽された人工林の多くが成長し、「使いどき」となっています。ところが、これまで国産材はコストの安い輸入材に押され、十分に利用されてきませんでした。

成長した木をタイミングよく伐り、利用し、新たに苗木を植えることで森林の持続的なサイクルが保たれます。こうして保たれた森は、CO2を吸収して地球温暖化防止に寄与したり、豊かな水源を確保しながら洪水や土砂災害を防ぐ役割も担います。

気候変動による脱炭素化の流れや木材利用の技術革新も踏まえ、昨年10月には「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律（都市の木造化推進法）」が施行され、中高層建築物での木材利用の機運が高まってきています。

さらに、パンデミックをきっかけに起こったグローバルサプライチェーンの見直し機運、ウクライナ危機で浮上した資源エネルギー問題などが重なり、今こそ積極的に国産材を使い、我が国の森林を豊かにすることが求められています。

## 【専門家たちが森林・林業・木造建築の全容把握から各論まで展開～】

中高層ビルなどの木造化を推進するため、林業・木材産業に関わるあらゆるステークホルダー：ディベロッパー、ゼネコン、施主、設計事務所、商社、建築家、法律の専門家、政策当局者などが一挙に集結！

東京海上 相談役 隅修三氏、建築家 隈研吾氏をはじめ、三井不動産、三菱地所、ヒューリック、竹中工務店、大林組、住友林業、日建設計、東急建設、シェルター、ナイス、中国木材、銘建工業、MEC Industry、ウッドステーション、ニッポニア木材など 各業界リーダーが熱い議論を繰り広げます！

# 開催概要



名 称	木づかいシンポジウム2022 (SUSTAINABLE FOREST SYMPOSIUM2022)
キャッチコピー	木づかいで始まる脱炭素社会 ~日本の森は「使う」時代へ
会 場	室町三井ホール&カンファレンス (東京・日本橋)
日 程	2022年10月7日 (金) シンポジウム 8:50-18:30 アフターパーティ 18:30-20:00
主 催	株式会社Spero (代表取締役 高橋ひかり) 株式会社GiveFirst (代表取締役 山田康昭) 一般社団法人全国木材組合連合会
協 賛	三井不動産株式会社 三井ホーム株式会社 三菱地所株式会社
後 援	国土交通省、文部科学省、農林水産省、総務省 一般社団法人日本ウッドデザイン協会 森林を生かす都市の木造化推進協議会
WEBサイト	<a href="http://symposium.sustainable-forest.com/">http://symposium.sustainable-forest.com/</a>

# シンポジウムのタイムスケジュール

とき: 2022年10月7日(金)

8時50分開始

18時30分終了

PART1:

中高層ビルの木造化全容

【木づかいと脱炭素社会】

PART2:

ニーズのセッション

【SDGsから儲かる木造建築へ】

PART3:

課題解決のセッション

【木造化時代へのアクション：  
技術とビジネス】

8:50-9:05	開会式 農林水産副大臣による開会挨拶 / 主催者による趣旨説明
9:05-9:10	[ショートプレゼンテーション]木材×デザインの新たなプラットフォーム「日本ウッドデザイン協会」
9:20-9:40	基調講演「国産材の大きな需要創出と林業再生」
9:50-10:00	基調講演「木材利用推進に向けた機運の高まり」
10:00-11:00	[パネル1] 中高層ビルの木造化木質化 ~SDGs時代を築く建築
11:20-11:30	基調講演「林業と木材利用：地方創生」
11:30-12:30	[パネル2] 木づかいとまちづくり ~都市と中山間地域
12:50-13:00	基調講演「官民連携で木材需要の呼び込みと川上連携」(ビデオメッセージ)
13:00-13:50	[パネル3] 木造化ラブコール ~施主と消費者の"木"への渴望
14:00-14:50	[パネル4] 投資と木づかい ~森林と木造建築の投資価値
15:10-16:00	[パネル5] 木材サプライチェーンマネジメント~地域活性と安定供給
16:10-17:00	[パネル6] 木造化を進める技術 ~ 素材と工法・構法、そして材供給
17:10-18:00	[パネル7] 木づかいベンチャー特集 ~新たなビジネスモデルと技術
18:10-18:30	閉会式 織田 央 林野庁長官による閉会挨拶 / 主催者による閉会宣言
18:30-20:30	アフターパーティー (ホワイエにて)

# 会場図

## LOCATOIN

室町三井ホール&カンファレンス

東京都中央区日本橋室町三丁目2番1号 COREDO室町テラス3階



## ACCESS

地下鉄「三越前」駅直結

JR「新日本橋」駅直結

JR東京駅

神田駅からも

徒歩圏内



シンポジウムホール



ホワイエ

# 開催規模と来場者数

会場収容人数：288席（スクール形式）

来場者数：328名

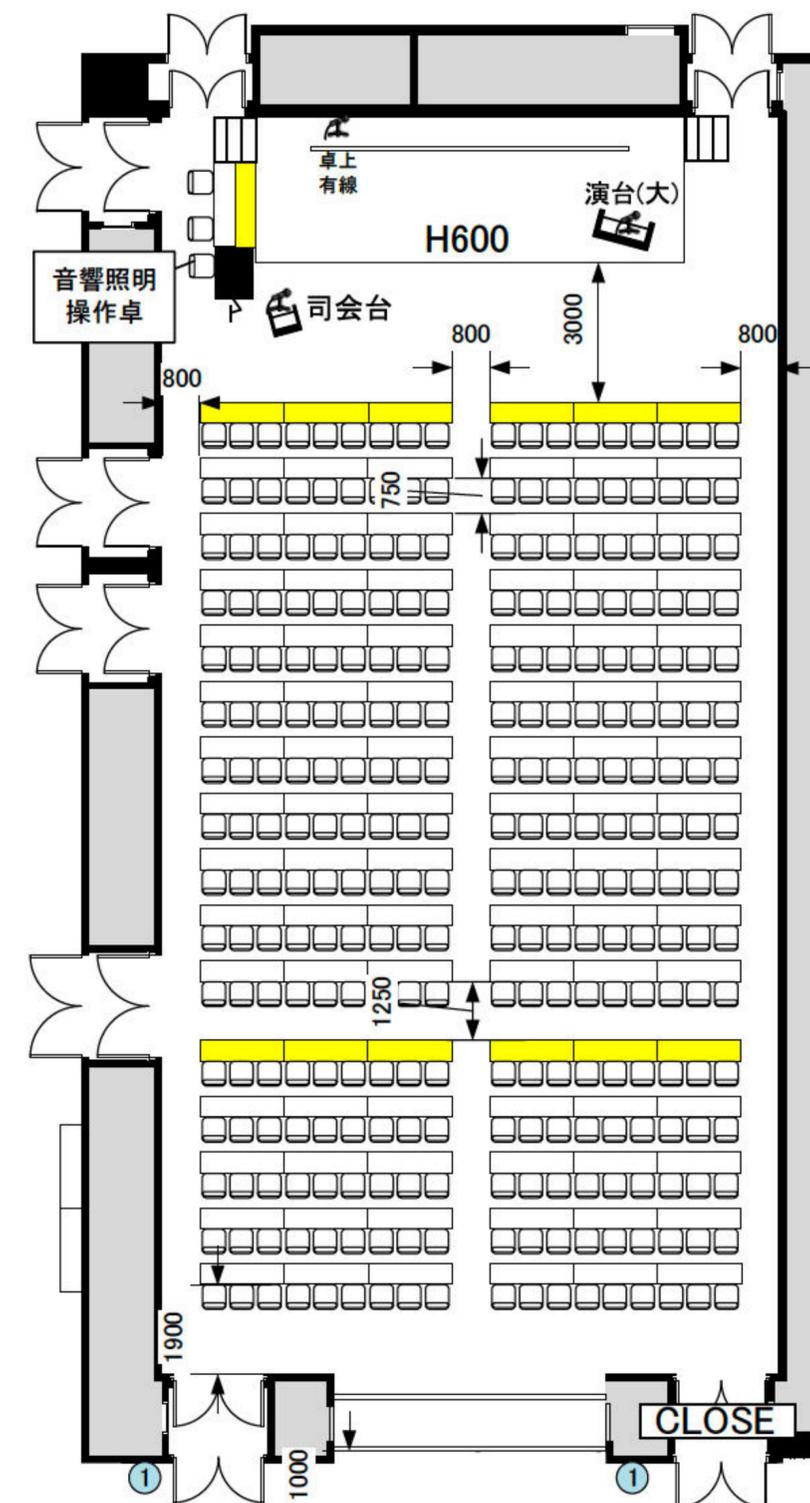
※来場者内訳については29ページ以降

パネリスト：25名

基調講演：4名（うち1名パネリストと同様）

他挨拶など：3名

モデレーター：3名



シンポジウム  
会場レイアウト

# 登壇者一覧

隅 修三	東京海上日動火災保険株式会社 相談役
隈 研吾	建築家、東京大学特別教授・名誉教授
松崎 裕之	株式会社竹中工務店 木造・木質建築統括参与
浦谷 健史	ヒューリックプロパティソリューション株式会社 代表取締役社長/ヒューリック株式会社 エグゼクティブフェロー
山本 有	三井不動産株式会社 サステナビリティ推進本部 サステナビリティ推進部 部長
山梨 知彦	株式会社日建設計 CDO常務執行役員チーフデザインオフィサー
杉本 貴一	住友林業株式会社 住友林業株式会社 建築事業部 技師長
山崎 慎二	株式会社大林組 木造・木質化建築プロジェクトチーム チームリーダー 部長
森下 喜隆	三菱地所株式会社 関連事業推進室長 兼 MEC Industry株式会社 取締役
神田 典子	株式会社ロイヤルパークホテルズアンドリゾーツ / ザ ロイヤルパークキャンパス札幌大通公園総支配人
依田 明史	三井ホーム株式会社 施設事業本部 事業推進室 営業推進グループ長事業推進グループ長
長澤 悟	株式会社教育環境研究所 理事長兼所長 工学博士 / 東洋大学名誉教授
末松 広行	東京農業大学 特命教授 (元農林水産省事務次官)
沢田 涉	株式会社三井住友フィナンシャルグループ・三井住友銀行 専務執行役員
杉山 泰成	西村あさひ法律事務所パートナー 弁護士
堀川 保彦	中国木材株式会社 代表取締役社長

# 登壇者一覧

柳瀬 拓也	MEC Industry株式会社 企画部部長
青木 良篤	ナイス株式会社資材事業本部 木材事業部 首都圏木材営業部 部長
浅井 透	東急建設株式会社 建築事業本部 事業統括部 木造推進部 専門部長
安達 広幸	株式会社シエルター 常務取締役
宮竹 靖	銘建工業株式会社 木質構造事業部 木質構造事業部長
塩地 博文	ウッドステーション株式会社 代表取締役会長
加藤 正人	信州大学 農学部 教授
小原 富治雄	ニッポニア木材株式会社（現株式会社フランウッド）代表取締役
安齋 好太郎	建築家株式会社ADX 代表取締役
高橋 義則	一般社団法人日本ウッドデザイン協会 事務局長
野中 厚	農林水産副大臣
織田 央	林野庁長官
石破 茂	衆議院議員 CLTで地方創生を実現する議員連盟
金子 恭之	衆議院議員 森林を活かす都市の木造化推進議員連盟
下野 六太	参議院議員 元農林水産大臣政務官

## [モデレーター]

高橋 ひかり	株式会社Spero 代表取締役
長野 麻子	株式会社モリアゲ 代表取締役
山田 康昭	株式会社Givefirst 代表取締役

## [総合司会]

名越 涼	アナウンサー
	株式会社agreee culture代表取締役

# 開会式

9:20- 9:40 開会の挨拶

野中 厚 農林水産副大臣

9:50-10:00 趣旨説明：高橋 ひかり 木づかいシンポジウム事務局 主催

9:05- 9:10 [ショートプレゼンテーション] 木材×デザインの新たなプラットフォーム「日本ウッドデザイン協会」

高橋 義則 一般社団法人日本ウッドデザイン協会 事務局長

野中厚農林水産副大臣は、開会の挨拶にて、国産材の政策の変遷と昨今の国産材利用推進の背景について述べ、今後の中高層ビル木造化木質化の促進への期待を寄せた。

高橋義則氏は、前年度に設立した、（一社）日本ウッドデザイン協会の事業内容について述べ、会場にその参画を促した。



顕彰事業 ウッドデザイン賞



木を活かして、新たな時代の価値をデザインする。  
「ウッドデザイン賞」は、木の良さや価値を、デザイン力で再構築することを目的として、優れた建築・空間や製品、活動や仕組み、研究等を募集・評価し、表彰する顕彰制度です。

多様な社会課題の解決に貢献する「ウッドデザイン賞」の3つの部門

ライフスタイルデザイン部門	ハートフルデザイン部門	ソーシャルデザイン部門
木を活かして 質の高いライフ&ワークスタイル を提案しているものが対象	木を活かして 心身を健やかにしてWell-being の実現が期待されるものが対象	木を活かして 森林・林業や地域・社会の持続性 を向上させているものが対象
住まいからオフィス、店舗、学校等の多様なシーンに応じて、木を活かして機能性・利便性の高めて、豊かなライフ&ワークスタイルを提案している建築・空間、技術、製品、取組、研究等。	木を活かすことで快適性を高めて、心身のリラックスやコミュニケーションの促進等により、Well-beingの実現や創造性の創出等が期待される建築・空間、技術、木製品、取組、研究など。	持続可能な森林管理、地域経済循環率の向上に寄与する木材利用や、ストーリー性の付与や関わりの創出等で木材利用の高付加価値化に寄与する建築・空間、技術、木製品、取組、研究など。

# 基調講演 1

9:20-9:40 [基調講演] 国産材の大きな需要創出と林業再生  
隅 修三 東京海上日動火災保険株式会社 相談役

東京海上日動火災保険株式会社の相談役で、ウッド・チェンジ協議会の隅修三会長は、基調講演にて、昨今の中高層ビルの木造化木質化の事例を取り上げながら、国産材の利用促進には、需要を創出することが重要であることと、その需要創出から林業再生・地方創生に繋げていく構想について話した。

※隅修三氏のプロフィールは、12ページ



# 基調講演 2

9:50-10:00 [基調講演] 木材利用推進に向けた機運の高まり

金子 恭之 衆議院議員 森林を活かす都市の木造化推進議員連盟

衆議院議員で、森林を活かす都市の木造化推進議員連盟 議長の金子恭之氏は、日本の林業と木材利用および木造建築物の歴史について話した。さらに、自らが議長をつとめる森林を活かす都市の木造化推進議員の活動などについても触れ、今後の木材利用推進について、官民連携ですすめていく重要性を話した。



## 金子 恭之氏プロフィール

熊本県球磨郡深田村（現あさぎり町）生まれ。熊本県立人吉高等学校、早稲田大学商学部卒業。総務大臣、国土交通副大臣、農林水産大臣政務官、衆議院国土交通委員長、自民党たばこ議員連盟幹事長代理、衆議院災害対策特別委員長等歴任。森林を活かす都市の木造化推進議員連盟、議連幹事長。

# 【パネル1】 中高層ビルの木造化木質化 ～SDGs時代を築く建築

10:00-11:00

隅 修三 東京海上日動火災保険株式会社 相談役

隈 研吾 建築家、東京大学特別教授・名誉教授

松崎 裕之 株式会社竹中工務店 木造・木質建築統括参与

浦谷 健史 ヒューリックプロパティソリューション株式会社 代表取締役社長  
ヒューリック株式会社 エグゼクティブフェロー

モデレーター：高橋 ひかり 株式会社Spero 代表取締役



概要：中高層ビルの木造化について、全容を議論するセッション。

中高層ビル木造化の実経験（HULIC&New GINZA8）をもとに、その建築物をとりまくプロデューサー、施主、ゼネコン、設計事務所が、それぞれの立場から、木造化の意義と価値について、経済面・社会面・文化面・環境面から多面的に議論した。同時に、中高層ビルにおける木づかいを推進する上の課題を分析しつつ、解決の兆しについて紐解いた。

# 【パネル1】 登壇者プロフィール



隈 研吾  
建築家

東京大学特別教授・名誉教授

1954年生。1990年、隈研吾建築都市設計事務所設立。慶應義塾大学教授、東京大学教授を経て、現在、東京大学特別教授・名誉教授。30を超える国々でプロジェクトが進行中。自然と技術と人間の新しい関係を切り開く建築を提案。主な著書に『点・線・面』（岩波書店）、『ひとの住処』（新潮新書）、『負ける建築』（岩波書店）、『自然な建築』、『小さな建築』（岩波新書）、他多数。



隅 修三

東京海上日動火災保険株式会社  
相談役

1947年、山口県生まれ。70年早稲田大学理工学部卒業、東京海上火災保険（現・東京海上日動火災保険）入社。95年本店営業第七部長、98年企業商品業務部長、2000年取締役ロンドン首席駐在員、02年常務、05年専務、07年取締役社長、2016年から同社相談役。経済同友会副幹事を経て日本経済団体連合会副会長を歴任。2021年9月13日にウッド・チェンジ協議会会長に就任。



松崎 裕之

株式会社竹中工務店  
木造・木質建築統括参与

東京都出身。1986年竹中工務店入社。2015年東京本店設計部構造部門部長を経て、2016年9月より現職。



浦谷 健史

ヒューリック°パティリーション株式会社  
代表取締役社長

ヒューリック株式会社 IKBグループ

1986年京都大学工学部建築学科を卒業後、松田平田設計に入社。建築設計者として公共建築から、民間企業のオフィスビルまで幅広く経験。2009年ヒューリック入社後は、開発推進部長として、建替え、開発案件のPMr部署を統括する。100棟以上の建築を担当したのち、2020年1月より、現職としてヒューリックの再エネ施設の開発、RE100、CO2ゼロ等に取り組む。

# 基調講演 3

11:20-11:30 [基調講演] 材業と木材利用：地方創生

石破 茂 衆議院議員 CLTで地方創生を実現する議員連盟

衆議院議員で、CLTで地方創生を実現する議員連盟 議長の石破茂氏は、日本の人工林の資源が世界第2位であることに触れ、日本の経済成長に、林業をはじめとする地方の第一次産業の成長が不可欠であることを話した。地方から、一人ひとりが行動を起こし、日本の資源を有効活用していくことの重要性を強調した。



## 石破 茂氏プロフィール

1957（昭和32）年生まれ、鳥取県出身。慶應義塾大学法学部卒。1986年衆議院議員に全国最年少で初当選。防衛大臣、農林水産大臣、地方創生・国家戦略特別区域担当大臣などを歴任。著書に『国防』『国難』『日本列島創生論』『政策至上主義』など。CLTで地方創生を実現する議員連盟の会長。

## 【パネル2】 木づかいとまちづくり ～都市と中山間地域

11:30-12:30

- 山本 有 三井不動産株式会社 サステナビリティ推進本部  
サステナビリティ推進部 部長
- 山梨 知彦 株式会社日建設計 CDO常務執行役員チーフデザインオフィサー
- 杉本 貴一 住友林業株式会社 住友林業株式会社 建築事業部 技師長
- 浦谷 健史 株式会社大林組  
木造・木質化建築プロジェクトチーム チームリーダー 部長
- モデレーター：山田 康昭 株式会社Givefirst 代表取締役



概要：木造化・木づかいを“まちづくり”という観点から、都会と地方それぞれ議論するセッション。都市における木づかいのまちづくりとその利点から、木材利用がもたらす森林、林業及び中山間地域経済全体への影響に至るまで議論した。木材利用と森林保全、経済の循環を目指すにあたって必要な課題と解決のためのアクションを整理した。

# 【パネル2】 登壇者プロフィール



山梨 知彦

株式会社日建設計

CDO常務執行役員チーフデザインオフィサー

1984年東京藝術大学建築科卒業。  
1986年東京大学大学院修了。日建設計に入社。現在、チーフデザインオフィサー、常務執行役員。建築設計の実務を通して、環境建築やBIMやデジタルデザインの実践を行っているほか、木材会館などの設計を通じて、「都市建築における木材の復権」を提唱している。日本建築学会賞、グッドデザイン賞、東京建築賞などの審査員も務めている。



山本 有

三井不動産株式会社 サステナビリティ推進本部

サステナビリティ推進部 部長

1994年京都大学経済学部経済学科卒業、三井不動産株式会社入社。ビルディング本部における物件仕入れ、本社財務にて資金調達などに従事した後、2015年からビルディング本部にて、主に日本橋の再開発プロジェクトを担当。2021年10月より サステナビリティ推進部長。○主な著書等：『ファイナンス法大全〔全訂版〕（上）』（共編著、商事法務、2017）、『通信教育 動産・債権担保融資講座 ABLの基礎知識』（銀行研修社、2007）。



山崎 慎二

株式会社大林組

木造・木質化建築プロジェクトチーム 部長

1992年福井大学工学部建築学科卒業後、株式会社大林組入社。1994年より伝統木造建築現場に従事し、社寺建築や数寄屋建築等の新築工事及び改修工事を手掛ける。伝統木造研究開発メンバーとして、新たな工法や技術を開発し、現場支援や指導教育を行う。2020年より現チームのメンバーとして、伝統木造建築における知見を活かして都市の木造・木質化建築を推進している。



杉本 貴一

住友林業株式会社

建築事業部 技師長

1989年名古屋工業大学卒業後、住友林業株式会社入社。10年間名古屋にて戸建住宅の設計・施工に携わり、その後本部商品開発部にて住宅部材の開発を担当。非住宅分野の木造推進の開始に伴い、2010年不動産事業本部の特殊木造開発チームへ配属。現在は建築事業部にて木材を積極的に活用し、木造化・木質化を行う「木化事業」を推進中。

# 基調講演 4

12:50-13:00 [基調講演] 官民連携で木材需要の呼び込みと川上連携(ビデオメッセージ)

下野 六太 参議院議員 元農林水産大臣政務官

参議院議員で元農林水産大臣政務官の下野六太氏は、国会関連の予定と重なり、ビデオメッセージにて基調講演を行なった。木材利用には、一企業や一組織を超えて、官民連携や川上連携など、ステークホルダーが協力し合うことが必要であることを話した。また、自ら木材を手に取り、集中力の向上など、木の持つ科学的な効用について語った。



## 下野 六太氏プロフィール

福岡県北九州市八幡西区生まれ。島根大学教育学部卒。福岡教育大学大学院修士課程修了。福岡県中学校保健体育科教諭。福岡県中学校保健体育科主幹教諭。中学校教員の在職中に、読売教育賞優秀賞・文部科学大臣優秀教員表彰を受賞。○著書「やればできる！を味わえば子どもは伸びる」等。

## 【パネル3】 木造化ラブコール ～施主と消費者の"木"への渴望

13:00-13:50

- 森下 喜隆 三菱地所株式会社 関連事業推進室長  
MEC Industry株式会社 取締役
- 神田 典子 ザ ロイヤルパークキャンバス札幌大通公園総支配人
- 依田 明史 三井ホーム株式会社 施設事業本部 事業推進室  
営業推進グループ長 事業推進グループ長
- 長澤 悟 株式会社教育環境研究所 理事長兼所長 工学博士  
東洋大学名誉教授
- モデレーター：高橋 ひかり 株式会社Spero 代表取締役



概要：木造化における消費者需要（施主、および、その先の最終消費者）について議論するセッション。施主はなぜ、木造化・木質化を選んだのか。施主や最終消費者の声を紹介しながら、木造建築におけるホテル、マンション、学校などそれぞれの意義・価値を整理した。さらに、木造建築において、従来懸念されていた防音や耐久性・耐震性は、今どのように変わっているのかについても紹介した。

# 【パネル3】 登壇者プロフィール



森下 喜隆

三菱地所株式会社 関連事業推進室長  
兼 MEC Industry株式会社 取締役

90年三菱地所入社。土地の有効活用事業でマンションやビルの開発を担当後、住宅事業会社の設立、マンション管理会社の合併、不動産流通会社の買収など住宅事業戦略を担当。16年住宅業務企画部長、20年1月から22年4月までMEC Industry代表取締役社長。現在、三菱地所関連事業推進室長兼 MEC Industry取締役。



長澤 悟

株式会社教育環境研究所  
理事長兼所長 工学博士  
東洋大学名誉教授

神奈川県生まれ。東京大学大学院博士課程修了後、東京大学助手、日本大学助教授・教授、東洋大学理工学部教授を経て現在に至る。専門は建築計画学、建築設計、特に教育方法等の多様化に対応した学校施設計画、地域づくり、木の建築づくり等。教職員・保護者・住民・子どもたちが参加する計画プロセスによる学校づくりを全国で数多く実践する。



依田 明史

三井ホーム株式会社  
施設事業本部 事業推進室  
営業推進グループ長事業推進グループ長

1995年三井ホーム入社。慶応義塾大学経済学部卒。横浜支店横浜中央営業所、横浜北支店横浜北営業所、東京南支店世田谷営業所、横浜支店横浜南営業所などを経て、2015年より経営企画部 経営企画グループ、2017年、営業推進部 賃貸・ソリューショングループグループ長、2019年、営業推進部 賃貸・用地グループグループ長。2021年より現職。



神田 典子

ロイヤルパーク キャンバス  
札幌大通公園 総支配人

米国から帰国後、主に北海道内リゾートに進出した外資系企業においてセールス&マーケティング部に属し、新規事業開発と運営のリブランドを推進。近年では、国内及びインバウンドMICEの取り込みに注力。国際的な職場環境で培った知見を活かし、ロイヤルパークホテルズ初出店となる札幌にて総支配人を務める。

## 【パネル4】 投資と木づかい ～森林と木造建築の投資価値

14:00-14:50

末松 広行 東京農業大学 特命教授 (元農林水産省事務次官)

沢田 渉 株式会社三井住友フィナンシャルグループ  
三井住友銀行 専務執行役員

杉山 泰成 西村あさひ法律事務所パートナー 弁護士

モデレーター：山田 康昭 株式会社Givefirst 代表取締役



概要：木造建築物の経済的価値、また、森林と木造建築物の投資について議論するセッション。脱炭素・ESGへの意識が高まる中、木造建築市場はいかに伸びていくのか。世界的な脱炭素の潮流や木造技術向上とともに、再定義されるべき木造建築の事業性評価および投資価値を議論した。同時に、森林保全と森林投資の兆しについても、ファイナンス・法の両面から議論した。

# 【パネル4】 登壇者プロフィール



末松 広行  
東京農業大学 特命教授  
(元農林水産省事務次官)

埼玉県出身。1983年農林水産省入省。総理官邸内閣参事官、農林水産省環境政策課長、食料安全保障課長、政策課長、林野庁林政部長、関東農政局長、農村振興局長、経済産業省産業技術環境局長を経て、2018年農林水産事務次官。2020年8月に退官し、東京農業大学総合研究所特命教授、東京大学未来ビジョンセンター客員教授などを務める。食料安全保障、カーボンニュートラルを実現するための森林・林業、再生可能エネルギー、農福連携などに関心。



沢田 渉  
株式会社三井住友フィナンシャルグループ・  
三井住友銀行 専務執行役員

1986年大阪大学法学部法学科卒業、同年株式会社住友銀行入行、現在、審査担当役員（経営会議役員）。入行後、大口融資先の事業再生、コーポレートガバナンス等の企画・統括、危機管理・有事対応などの経営管理部署を経て、国内外および法人・個人など審査全般の統括。現在、森林資源の活用を中核とするサーキュラーエコノミーの構築プロジェクトを垂範中。



杉山 泰成  
西村あさひ法律事務所  
パートナー 弁護士

アグリ・フードプラクティスグループのパートナー。農林漁業のバリューチェーンの各フェーズに適用される多様な法制を整理しつつ、事業規模の拡大・資金ソースの多様化、ソーラーシェアリング、陸上養殖、カーボンクレジットを利用した森林ビジネスといった新しい取組の実現を図るためのリーガルサービスを提供することを目指している。

# 【パネル5】 ビジネスが飛躍する木材サプライチェーンマネジメント

15:10-16:00

堀川 保彦 中国木材株式会社 代表取締役社長

柳瀬 拓也 MEC Industry株式会社 企画部部長

青木 良篤 ナイス株式会社資材事業本部 木材事業部  
首都圏木材営業部 部長

モデレーター：長野 麻子 株式会社モリアゲ 代表取締役



概要：木材の安定供給に不可欠なサプライチェーンについて議論するセッション。

川上・川中ともに、小規模事業者も多い林業・木材業界で、いかに安定供給を実現するか。大手の製材業、住宅のサプライチェーン、新規参入の木材メーカーという三者三様の切り口とビジネスモデルを紹介しながら、地域や事業者とともに豊かになるためのサプライチェーンマネジメントのあり方を議論した。

# 【パネル5】 登壇者プロフィール



堀川 保彦  
中国木材株式会社  
代表取締役社長

大学卒業後、住宅メーカーの営業を経験し、1999年中国木材株式会社に入社。入社後は生産現場を経験し、鹿島工場・宮の郷工場を立上げ、外材・国産材の生産・流通を全般的に経験した後、総括安全衛生管理者・品質管理をメインとして会社全体を統括。今後も国産材発展に尽力致します。



柳瀬 拓也  
MEC Industry株式会社  
企画部部長

05年三菱地所入社。法人営業を経験後に住宅開発業務を担当。主に開発用地の仕入れや開発全体のプロジェクトマネジメントに携わる。16年三菱地所の新事業提案制度（新規事業の社内公募制度）に総合林業事業の原案となる事業を提案。20年1月からMEC Industry企画部長。



青木 良篤  
ナイス株式会社  
資材事業本部 木材事業部  
首都圏木材営業部 部長

1997年ナイス(株)入社。主に西日本で木材営業を担当し、2013年西日本木材統括部長、2019年国産材利用開発部長を経て、現職。木材の仕入れ、開発、営業の経験を生かし、国産スギ大径材を活用した「Gywood®」「ObiRED®」など、高付加価値製品の開発等を通じ、国産材の需要創造に取り組んでいる。

# 【パネル6】 木造化を進める技術 ～ 素材と工法・構法、そして材供給

16:10-17:00

浅井 透 東急建設株式会社  
建築事業本部 事業統括部 木造推進部 専門部長

安達 広幸 株式会社シエルター 常務取締役

宮竹 靖 銘建工業株式会社 木質構造事業部 木質構造事業部長

モデレーター：長野 麻子 株式会社モリアゲ 代表取締役



概要：国産材普及に向けた技術とその普及について議論するセッション。

耐火部材、木造とS造を組み合わせたハイブリット構造、防音床や耐候性技術、CLTなど各種技術の事例に触れつつ、材調達からエンジニアリングウッドのものづくり、施工に至るまで、現場の工夫と課題点について、議論した。さらに、技術普及のための活動についても紹介した。

# 【パネル6】 登壇者プロフィール



安達 広幸

株式会社シェルター 常務取締役  
一般社団法人日本木造耐火建築協会 理事

大学卒業後、住宅メーカーの営業を経験し、1999年中国木材株式会社に入社。入社後は生産現場を経験し、鹿島工場・宮の郷工場を立上げ、外材・国産材の生産・流通を全般的に経験した後、総括安全衛生管理者・品質管理をメインとして会社全体を統括。今後も国産材発展に尽力致します。



宮竹 靖

銘建工業株式会社  
木質構造事業部 木質構造事業部長

1966年 石川県生まれ 豊橋技術科学大学大学院修了後、旧三井木材工業入社。非住宅木造部門にて設計・工事・営業を経験し、銘建工業入社。非住宅木質構造建築物の提案・営業・管理を中心に、中・高層ビル、博覧会、オリンピック関連案件等担当、2022年3月より現職。



浅井 透

東急建設株式会社  
建築事業本部 事業統括部  
木造推進部 専門部長

1982年東急建設株式会社入社。主に宿泊施設等の建築設計に携わる。2002年より木造戸建て住宅専門の設計に携わり、2018年非住宅木造建築への事業拡大に伴い木造・木質建築ブランド「モクタス」の立ち上げに参画。2020年より現職。（一社）日本ツーバイフォー建築協会中高層・施設系建築委員会委員。

# 【パネル7】 木づかいベンチャー特集 ～新たなビジネスモデルと技術

17:10-18:00

- 塩地 博文      ウッドステーション株式会社 代表取締役会長
- 加藤 正人      信州大学 農学部 教授
- 小原 富治雄      ニッポニア木材（現株式会社フランウッド）代表取締役
- 安齋 好太郎      株式会社ADX 代表取締役兼 / 建築家

モデレーター：長野 麻子 株式会社モリアゲ 代表取締役



概要：斬新な発想や技術から木づかいを促進するベンチャー特集のセッション。

木造化木質化を推進する上で、技術やビジネスモデルなどにおいて、先進的な取り組みを行うベンチャー企業の取り組みを紹介した。大型パネルと建設の工業化、国産針葉樹のハードウッド化、森林計測などの技術など、ベンチャー企業それぞれの優位性に触れつつ、木材利用推進と森林還元を持続的に回すモデルについて議論した。

# 【パネル7】 登壇者プロフィール



塩地 博文  
ウッドステーション株式会社  
代表取締役会長

商社在職中に、建築素材MOISS（モイス）を開発。続いて大型パネルの開発を行い、ウッドステーションを起業する。モイス、国産材サプライチェーンの開発も行い、モイスとして、2003年グッドデザイン賞、2005年日経BP技術賞を受賞。また、大型パネルとして、2019年グッドデザイン賞を受賞。工業所有権多数。2006年「『あたり前の家』がなぜ作れないのか？」2022年「森林列島再生論」を出版。



加藤 正人  
信州大学 農学部 教授

1957年北海道生まれ。2005年より信州大学農学部教授。北海道大学農学博士。専門は森林計測、計画学、ICTスマート林業、ドローン、レーザ計測、国際共同研究。第47回林業技術賞、森林計画学会賞、日本森林学会賞を受賞。35年間、質の高い1本1本の樹木情報を研究開発し、知財10件。大学発ベンチャー精密林業計測(株)の創業者・技術顧問。産学官連携による林業の成長産業化と社会実装に取り組む。



小原 富治雄  
ニッポニア木材株式会社  
(元株式会社フランウッド)  
代表取締役

日立建機を経て、フジグループ入社。米国支社にて、茶室の輸出、不動産開発事業に従事。2005年頃より、IDEE社と規格住宅、非電化工房社と非電化住宅など、複数新規事業、また新規輸出入事業を手掛ける。2017年、京都府立大学と共同で、国産針葉樹をハードウッドにする技術「フランウッド」の研究開発開始。2020年、ニッポニア木材社設立。2022年、「フランウッド」実用化。慶應義塾商学部卒。



安齋 好太郎  
株式会社ADX  
代表取締役/建築家

1977年福島県二本松市にて、祖父の代から続く安齋建設工業の3代目として生まれる。2006年自然と共生するサステナブルな建築を目指し、ADXを創業。「森と生きる。」をフィロソフィーに、自然と共生する建築を最重視し、自然に戻しやすい素材だけを使う工夫や建材のトレーサビリティのデザイン、林業や森づくりといった木の循環まで視野に含める建築の設計・施工を専門としている。登山がライフワーク。

# 閉会のご挨拶

18:10- 18:30 開会の挨拶

織田 央 林野庁長官  
閉会宣言 高橋 ひかり 株式会社Spero 代表取締役  
山田 康昭 株式会社GiveFirst 代表取締役

林野庁長官の織田央は、閉会のご挨拶として、改めて官民および関わる関係者が連携して、木材利用の促進をしていくことの重要性を説いた。最後に閉会宣言として、木づかいシンポジウム主催者2名が、シンポジウムが一過性に終わらぬよう、この場を皮切りに、登壇者・来場者が連携して行ってほしいと述べた。



# モデレーターと総合司会

パネル1, 3, 7のモデレーター



高橋 ひかり

株式会社Spero 代表取締役

「共感と共創」がテーマ。2015年リクルート社にて、ハードウェアベンチャーの製造支援事業を立ち上げる。その後、研究開発特化型VCにて、アクセラレーター運営、投資業務などに従事。2018年、社会課題解決ビジネス創出を支援するSpero社創業。2019年より京都芸術大学にて客員教授就任。林野庁とは森林特化のアクセラレーターを主催し4年目になる。木づかいシンポジウムの主催者。

パネル2, 4のモデレーター



山田 康昭

株式会社GiveFirst 代表取締役

1983年に日本経済新聞社に入社。編集局証券部、シカゴ支局、社会部、カイロ支局長、日経トレンディ編集部、VOUGUE Nippon編集部、日経マガジン編集長、写真部長を経て、2016年からFIN/SUMをはじめとするSUMシリーズイベントをプロデュースする。2020年8月に日本経済新聞社を退職、株式会社GiveFirstを起業。現在は、日本経済新聞社が主催するSUMシリーズイベントの企画、コンテンツづくりを担う。

パネル5, 6のモデレーター



長野 麻子

株式会社モリアゲ 代表取締役

1994年に農林水産省に入省し、林野庁企画課、フランス留学、バイオマス・ニッポン総合戦略検討チーム、国際調整課、(株)電通出向、水産庁水産経営課、食品環境対策室長、大臣官房報道室長、新事業・食品産業政策課長などを歴任。2018年から3年間林野庁木材利用課長として、木材利用を促進するため「ウッド・チェンジ」を各地で叫び続ける。2022年6月に早期退職。同年8月に日本の森を盛り上げる株式会社モリアゲを設立。

総合司会



名越 涼

アナウンサー

株式会社agreee culture代表取締役

東京都出身。幼少期を香港で過ごす。福井と愛知のテレビ局のアナウンサーを経て独立。メディア出演の他、“食”の分野では、全国各地の畑を取材し各誌に執筆。この活動が認められ、農林水産省の働き方改革検討会の有識者に抜擢される。最近では老舗醤油メーカーとタッグを組み、醗酵飲料「8cco」をプロデュース。WWDJAPANでは健康美容コラムを連載。また、山野美容芸術短期大学の「美しいコミュニケーション」で教鞭をとる。内閣府地域活性化伝道師。

# ネットワーキングパーティー

18:30-20:00

シンポジウム会場隣接のホワイエにて、登壇者、来場者らによる立食型のビジネスパーティーを行った。イベント後のネットワーキングの場として、賑わいを見せた。後日、複数の登壇者から、この場での商談が複数生まれたとの報告があった。

会場 : 室町三井ホールホワイエ、  
日時 : 10月7日（金）18:30-20:00  
形式 : 立食型パーティー  
出席者 : 登壇者、協賛社、協力団体、来場者  
など



# 当日の様子



# 来場プロモーション



専用WEBサイト

業界関係者などに対するチラシ配布

SNSを活用した広告



**木づかいシンポジウム 2022**  
2022年10月7日 (金)  
シンポジウム 8:50-18:30  
アフターパーティー 18:30-20:30

**WHERE**  
室町三井ホール&カンファレンス (東京・日本橋)

**TICKET**  
https://eventregist.com/e/sfs2022  
10月5日まで 5000円  
通常チケット 10000円

**CONTACT**  
symposium@sustainable-forest.com

**【ESG時代の木造建築】**  
中高層ビルなどの木造化を推進するため、  
林業・木材産業に関わるあらゆるステーク  
ホルダー：ディベロッパー、ゼネコン、  
施主、設計事務所、商社、建築家、法律の専  
門家、政策当局者などが一挙に集結！  
東京海上 相談役 岡修三氏、建築家 隈研吾氏  
をはじめ、三井不動産、三菱地所、ヒュー  
リック、竹中工務店、大林組、住友林業、  
日建設計、東急建設、シェルター、ナイス、  
中国木材、経建工業、MEC Industry、  
ウッドステーション、ニッポン木材など  
各業界リーダーが熱い議論を繰り広げます！  
主催：株式会社Spero 株式会社GiveFirst  
一般社団法人全国木材組合連合会  
協賛：三井不動産株式会社 三井ホーム株式会社  
三菱地所株式会社  
後援：農林水産省、国土交通省、  
文部科学省、総務省  
一般社団法人日本ウッドデザイン協会  
森林を生かす都市の木造化推進協議会

**Sustainable Forest Action**  
2022年9月29日

【日本最大級の建築・木材・森林のシンポジウム】  
隈研吾をはじめ、三井不動産、三菱地所、竹中工務店、大林組、住友林業、ヒューリック、日建設計、中国木材など、建築・森林業界のトップが30人集結！★22年10月7日東京日本橋

【ESG時代の木造建築】  
中高層ビルなどの木造化を推進するため、林業・木材産業に関わるあらゆるステークホルダー：ディベロッパー、ゼネコン、施主、設計事務所、商社、建築家、法律の専門家、ベンチャーまで、一挙に集結！  
現在の森林・林業・木造建築の現状と中高層建築物の木造化をめぐる全容把握から入り、木質化を可能にする最先端の技術やビジネス変革の事例、地方と林業の関わり、木質化や林業の可能性を広げるさまざまなスタートアップ企業に至るまで、様々な角度から各議論を展開し、次なるアクションを考察しながら、国産材需要の拡大「木づかい」とサステナブルな森林・林業の循環を目指します。

**ESG時代の木造建築のために 30人のリーダーが緊急集合！**  
Sustainable Forest Symposium 2022  
木づかいシンポジウム 2022  
2022年10月7日 (金)  
@室町三井ホール (東京・日本橋)

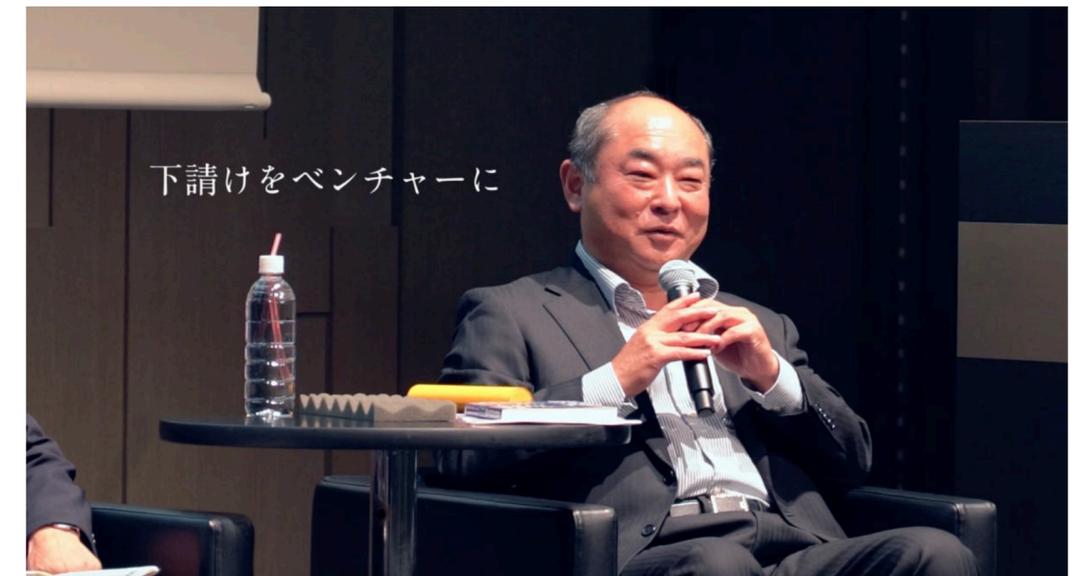
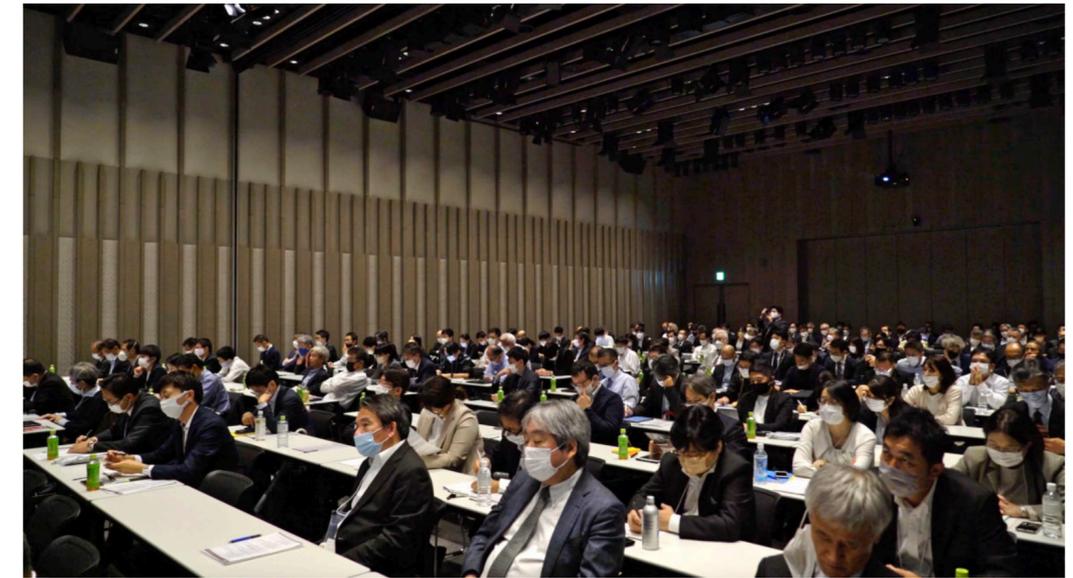
中高層ビルの木造化木質化  
～SDGs時代を築く建築

投資と木づかい  
森林と木造建築の投資価値

木づかいイベント特集  
新たなビジネスモデルと技術

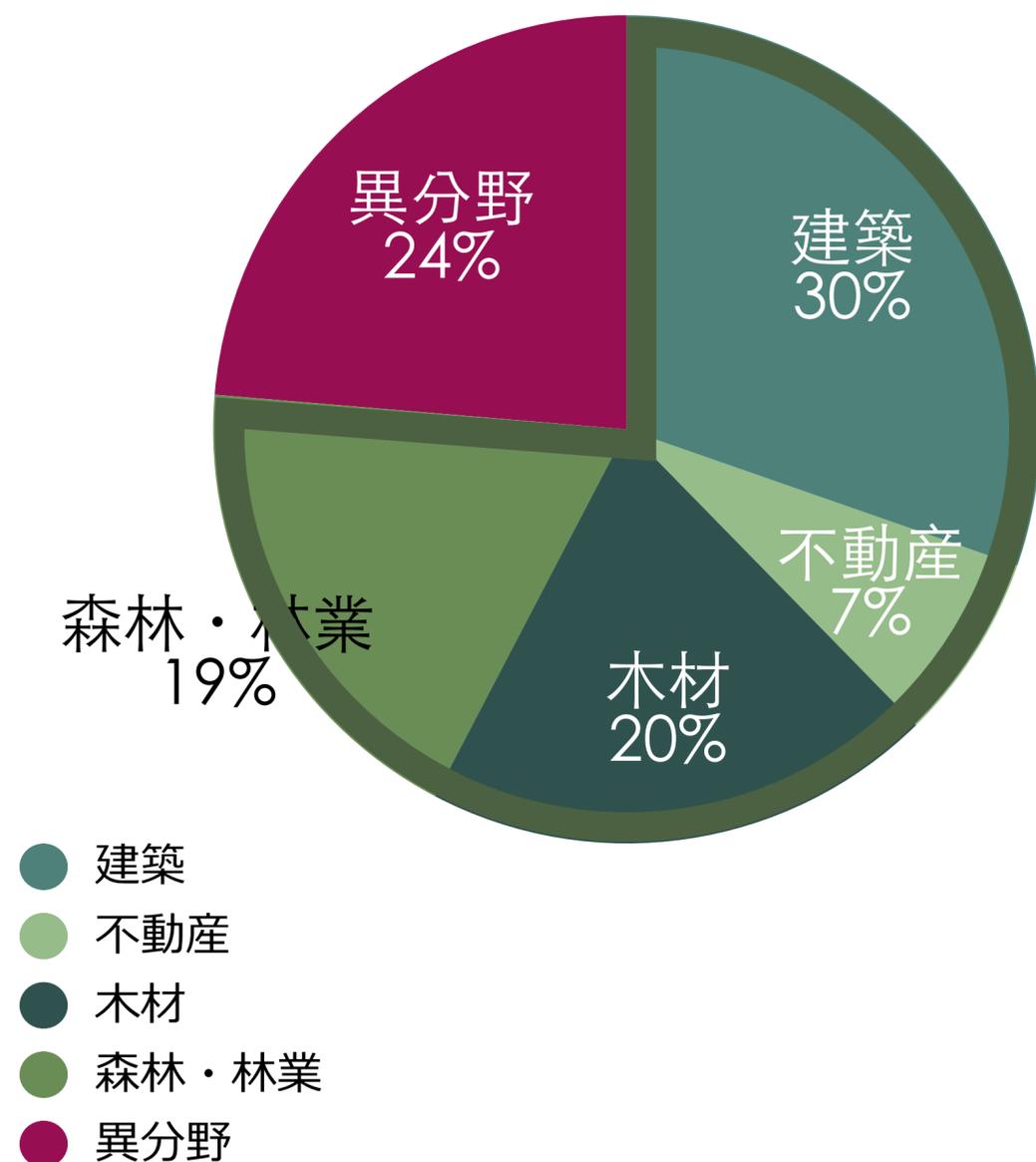
# ダイジェストムービーの配信

木づかいシンポジウム2022の登壇者たちの様子を約2分半にまとめたダイジェストムービーを制作し、木づかいシンポジウムの特設WEBサイトにて公開している。



# 来場者分析

## 業種



建築、木材、森林関連業界

76%

異分野業界

24%

建築・不動産業界が合わせて、37%

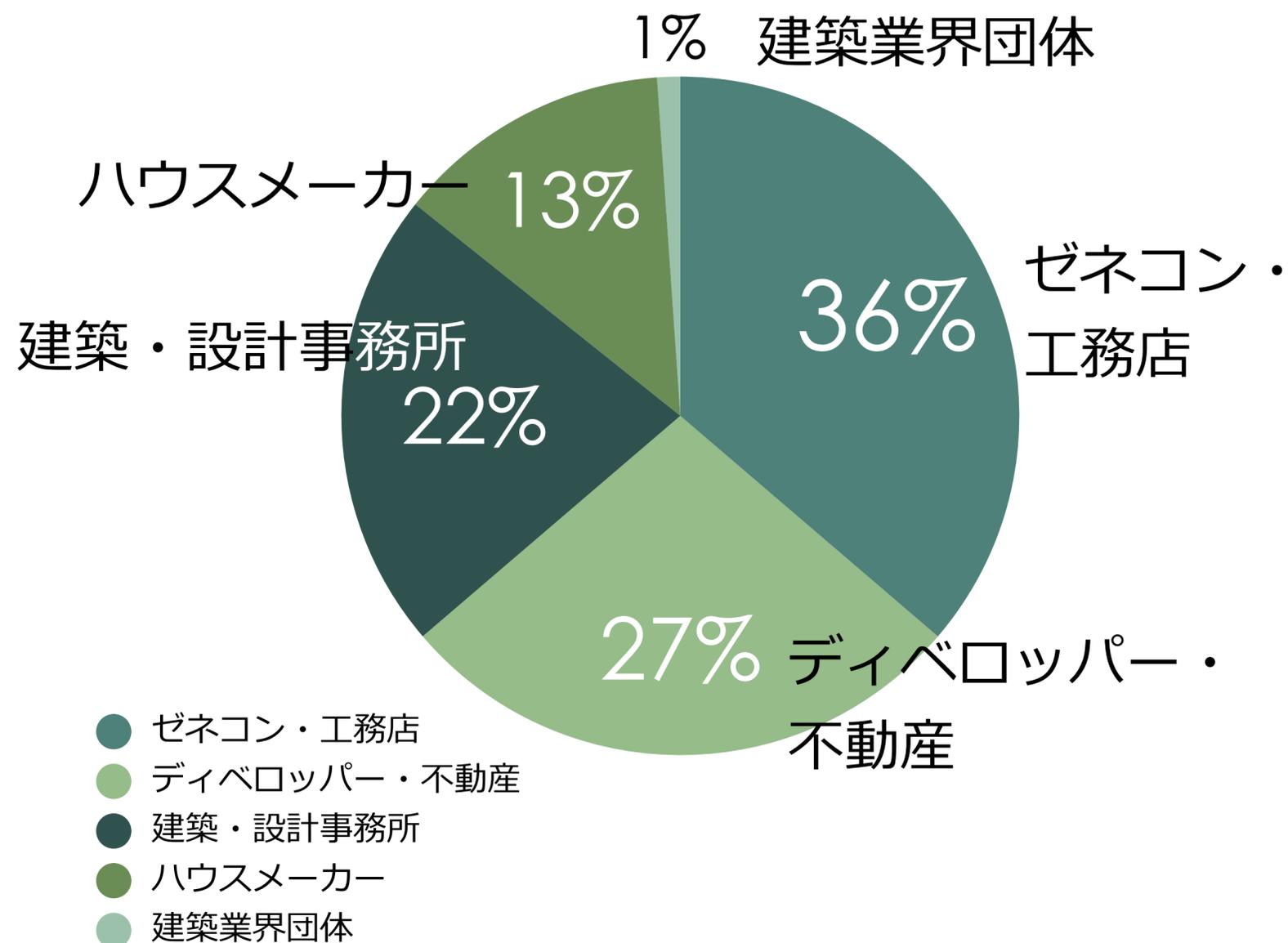
木材業界と森林・林業業界が合わせて、39%

建築・木材・森林いずれとも違う業界が 24%であった

※省庁関係者は、林野庁は森林・林業、他の省庁は、異分野に分類。

# 来場者分析

## 不動産・建築業界 参加者内訳

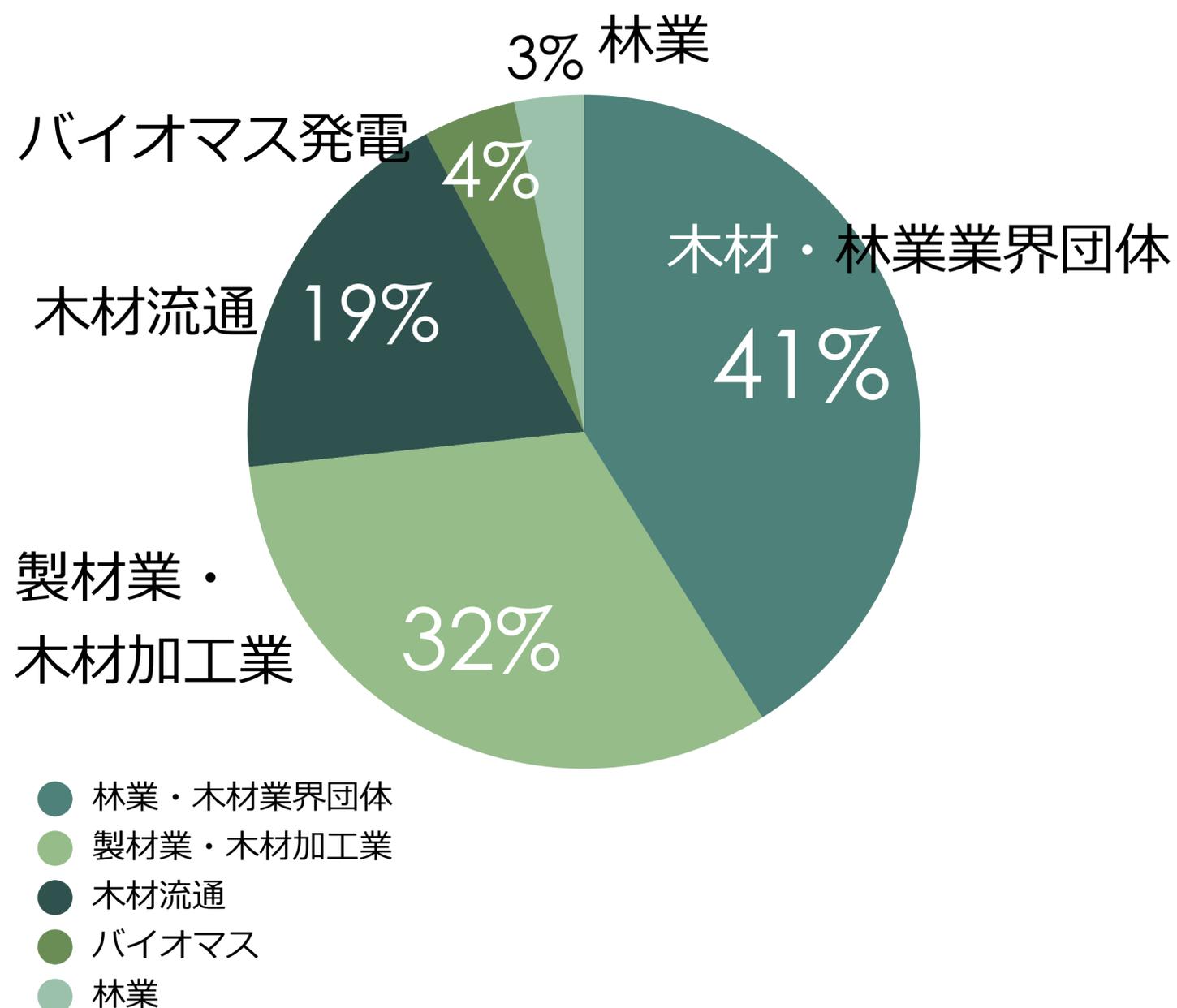


ゼネコン・工務店	36%
ディベロッパー・不動産	27%
建築・設計事務所	22%
ハウスメーカー	13%

※省庁関係者を除く

# 来場者分析

## 林業・木材業界 参加者内訳

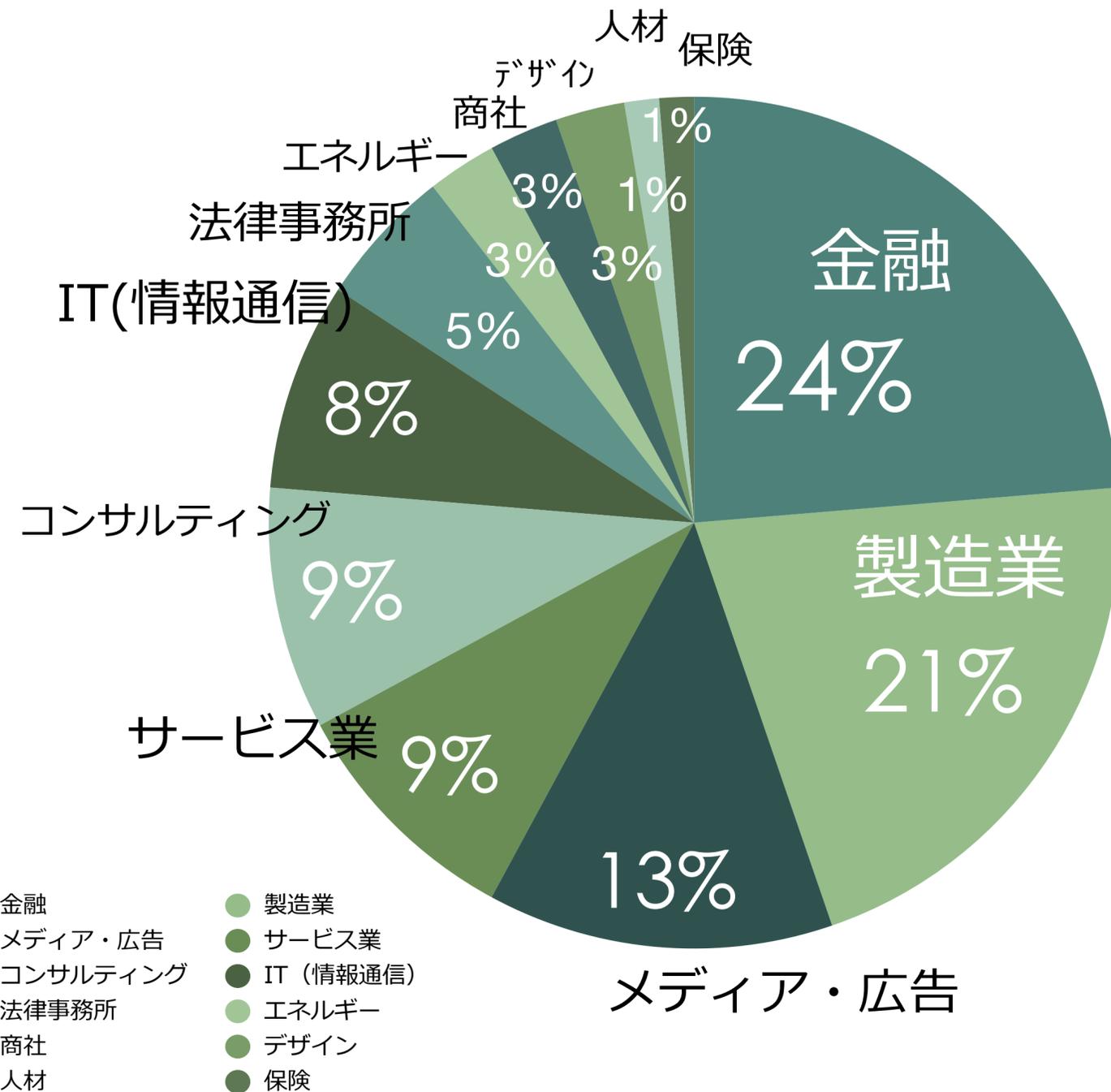


木材・林業業界団体	<b>41%</b>
製材業・木材加工業	<b>32%</b>
木材流通	<b>19%</b>
バイオマス発電	<b>4%</b>
林業	<b>3%</b>

※省庁関係者を除く

# 来場者分析

## 異業種 参加者内訳



金融

銀行・保険・証券など

製造業

自動車・化学・美容・スポーツなど

メディア・広告

新聞・広告代理店・映像制作など

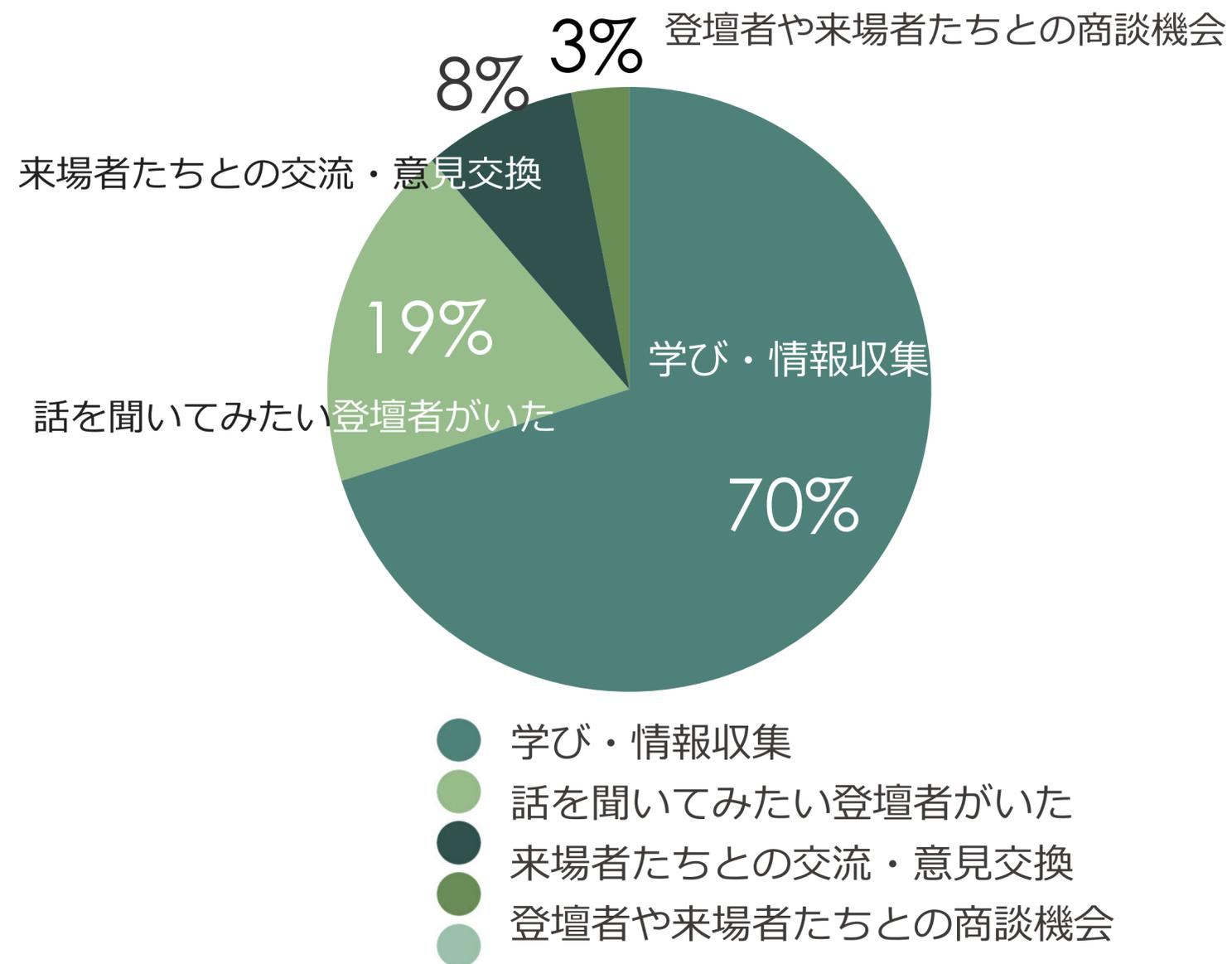
サービス業

宿泊/ホテル業・飲食店など

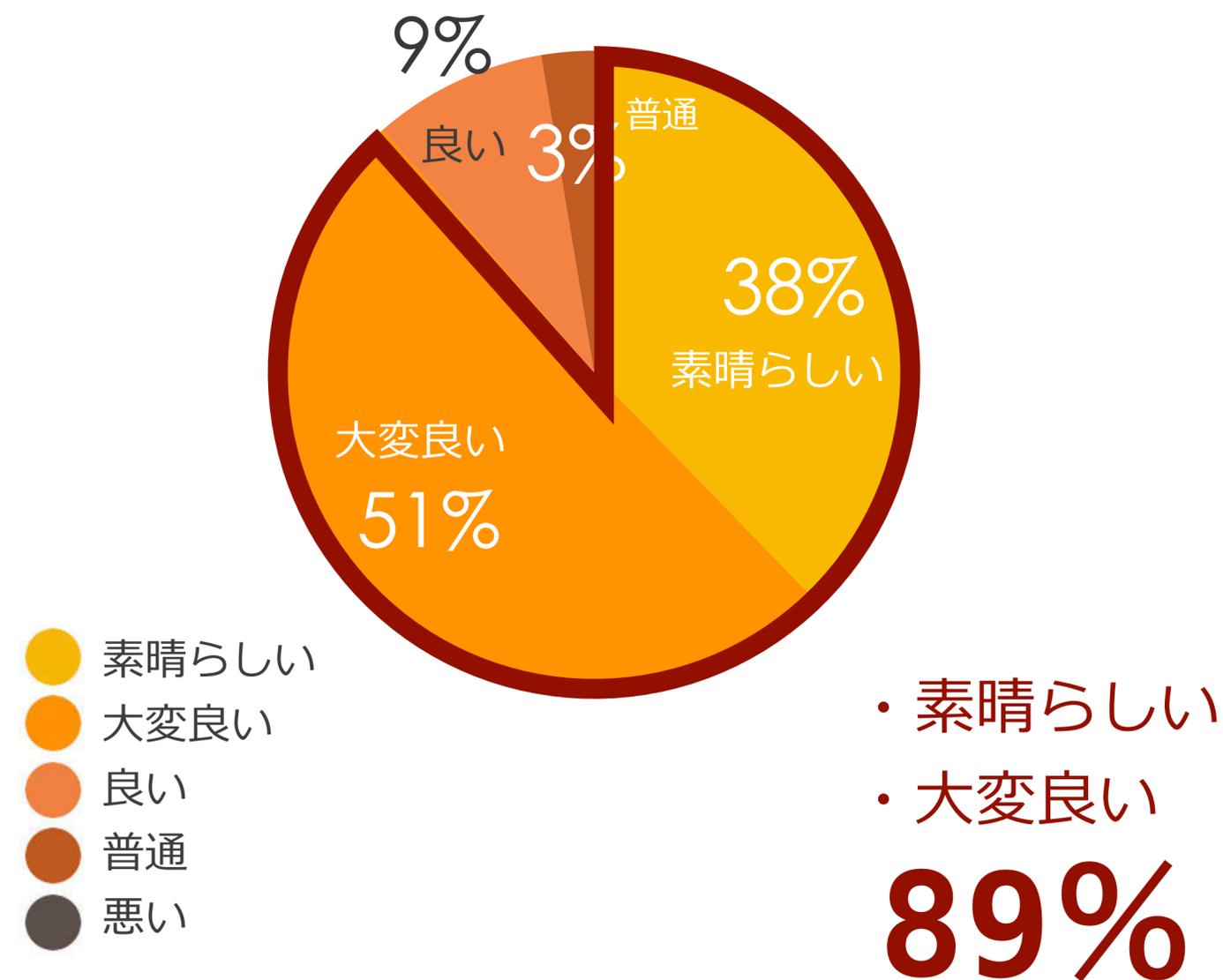
- 自動車、化学、スポーツなど異分野メーカーが、木材利用や森林活用へ関心があることがわかった。
- ホテル業、飲食店などは施主としての木材採用の興味が想定される。

# 来場者アンケート

Q. イベントへの参加理由を教えてください。

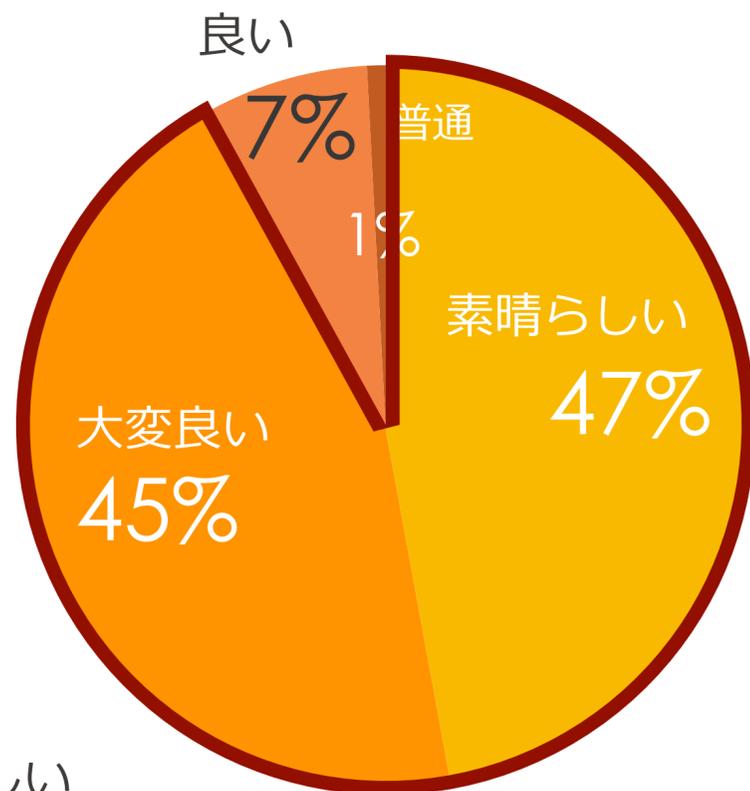


Q. 全体として、このイベントにどの程度満足しましたか。



# 来場者アンケート

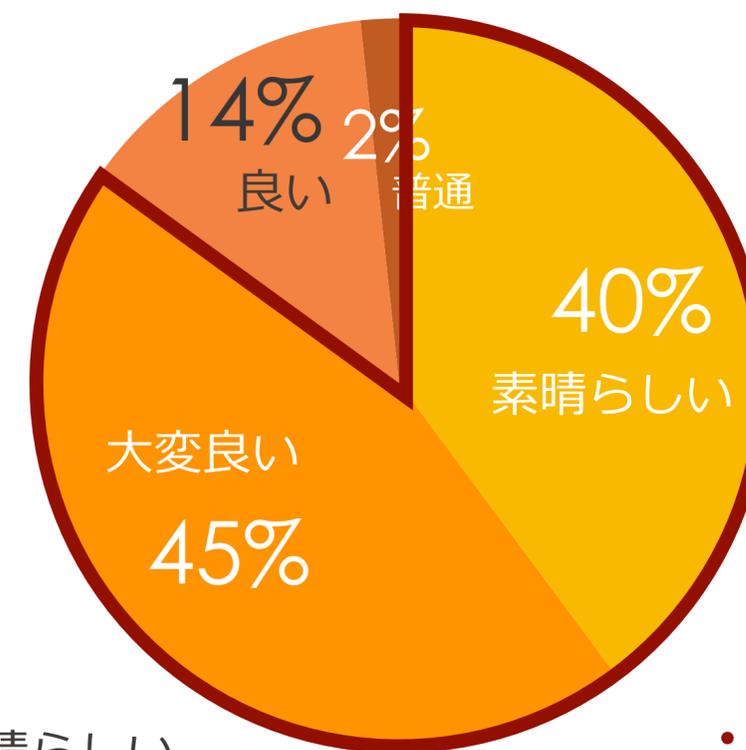
Q. スピーカー（講演者、パネリスト）の  
全体的な内容について評価をお聞かせください



- ・ 素晴らしい
- ・ 大変良い

**92%**

Q. セッションのディスカッション内容について  
評価をお聞かせください。



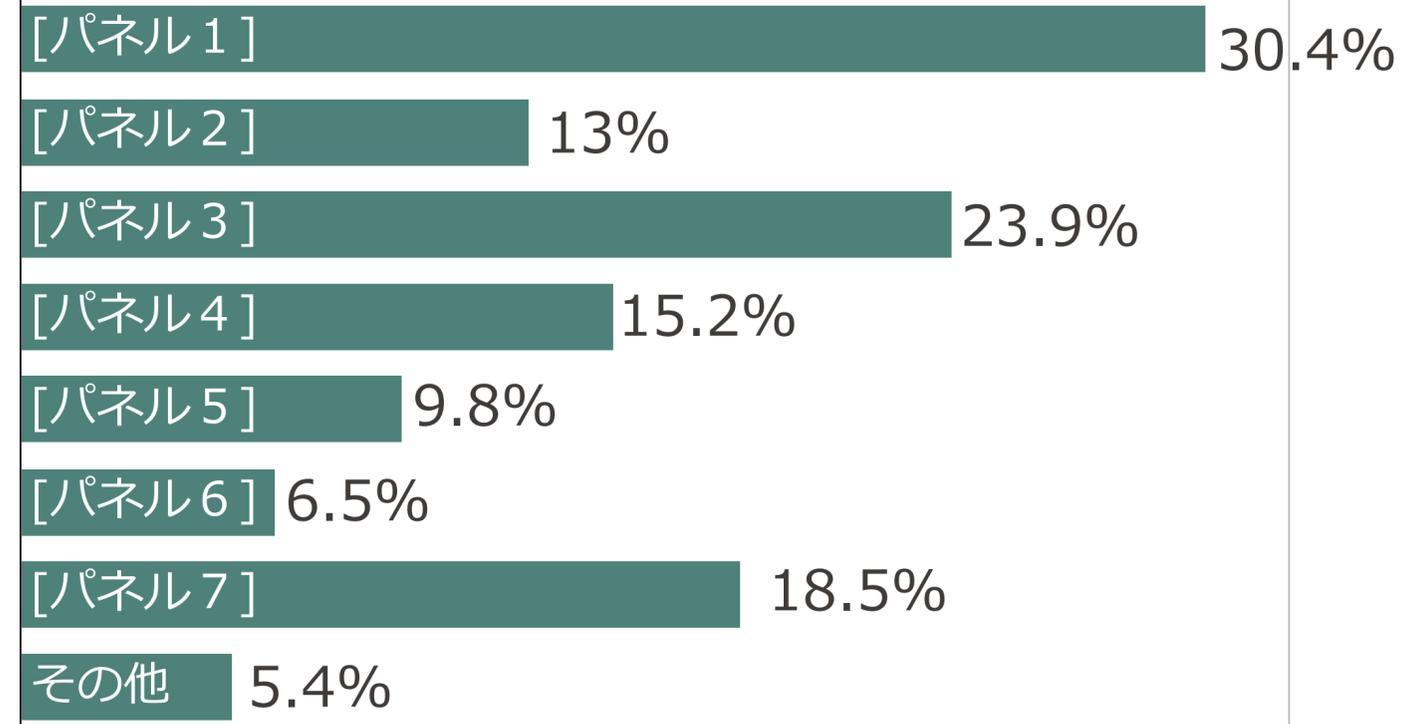
- ・ 素晴らしい
- ・ 大変良い

**85%**

# 来場者アンケート

Q. このイベントの中で、最もお気に入りのプログラムを一つお聞かせいただき、ご感想をお書きください

- [パネル1] 中高層ビルの木造化木質化 ～SDGs時代を築く建築
- [パネル2] 木づかいとまちづくり ～都市と中山間地域
- [パネル3] 木造化ラブコール ～施主と消費者の“木”への渴望
- [パネル4] 投資と木づかい ～森林と木造建築の投資価値
- [パネル5] 木材サプライチェーンマネジメント～地域活性と安定供給
- [パネル6] 木造化を進める技術 ～ 素材と工法・構法、そして材供給
- [パネル7] 木づかいベンチャー特集 ～新たなビジネスモデルと技術
- その他、基調講演など



来場者には、パネル1の「中高層ビルの木造化木質化」、パネル3の「木造化ラブコール」、パネル7「木づかいベンチャー特集」の順に、人気であった。

# 来場者アンケート

## ■ 次回や継続への期待

- 一過的なムーブメントにしないため、継続してこのようなシンポジウムを開催されると良いな、と感じました。
- 森林ファンドなど最新の情報も楽しかった。是非続けていただきたい。
- 社会動向や最新事例をアップデートしながら定期的を開催して欲しい。
- 次回もぜひ参加したく思います。また、今回の開催ありがとうございます。
- 年に一度くらいのペースで、このシンポジウムに参加したいです。
- 一年後、今回の登壇者たちの一年間の成果と変化を聞きたい。
- 本シンポジウム以外でもこのような機会が欲しい。

## ■ シンポジウムに対する満足の声

- 木材業界のオールスターが一堂に集結したようなイベントだった。
- 良いシンポジウムでした。ありがとうございます。
- これ以上のメンバーは集められないのでは。素晴らしいイベントを企画・運営いただきありがとうございました。
- 経済界のトップ、建築のトップ、ゼネコトップ、デベトップの熱い思いがよかった。
- 木造化木質化の未来を感じます。木造化社会が更に広がることを期待しております。

# 来場者アンケート

## ■参加型コンテンツに対する要望

- 座学以外のコンテンツも用意して欲しい。
- パネルセッションだけではなく、いろいろな形で交流できるようにして欲しい。
- アフターパーティの時間がもっと欲しかった。登壇社や参加者とたくさん話したかった。
- 展示や商談の場などもっとインタラクティブに交流できる場所を設けてもいいのでは？
- Twitterやwebを利用して会場からの質問を受け付けるなど、参加型のコンフェにしても良かったように感じる。

## ■新たなパネル内容に対する希望

- 今後、海外企業、団体も交えてディスカッション、ベンチマーク、グローバル市場との比較を図ってほしい。
- 海外の先進事例が知りたい。
- 欧米で始まっているカーボンオフセットの考えやエネルギーに関する話をもっと知りたい。
- 山主、林業従事者の視点から見た林業再生への取組に必要な課題を知りたい。
- 地方自治体の取り組みの共有とその参加を増やしていただきたい。
- ベンチャーの取り組みをもっと知りたいし、聞きたい。
- 林業の川上の話、バイオマス発電なども含めて、知りたい。

# 来場者アンケート

## ■ 具体的な学びに対する満足の声

- 施主や消費者の考えが聞けたので大変参考になった。実績を通じて市場の声を聞くことができてよかった。
- 経年優化、ネガティブをポジティブにという考え方、地産地消の話。
- 最上流となる林業・木材供給の状況について、改めて学ぶことができた。
- 各社がどのような技術・取り組みをしているのか知ることができてとてもよかった。
- ホテルの例など木造の建物への評価が高まっていることが聞けたのは非常に良かった。
- マネタイズや法令という観点で学べたのがよかった。
- 生産・流通・販売の中で、さまざまな工夫により、国産材需要の促進をおこなっていることが示された。
- 木づかいベンチャーの話聞いて、社会実装に向けて支援していきたい。
- 木のエイジングにより、経年しても建物の価値が上がるという話に勇気をもらった。
- 実際に取り組んでいる方々のお話は分かりやすく、特にサプライチェーンと対価基準の話が興味深かった。
- 木造の資産価値のスタンダード化が重要ということがわかった。
- 森林整備の仕組みづくりを検討しており、法改正に伴う当事者への影響について新たな知識を得ることができた。
- 木造のマーケティングやブランディングに関する知識を得ることができた。
- 新しい木造、林業、製材のスタイルが提示され、とてもワクワクした。
- 具体的なプロジェクトの話がとても分かりやすく、木造建築が注文される理由がよく分かりました。
- 供給側からのセッション、金融面からのセッション、需要側のセッションを聞いて、今後の木材利用促進の希望を強く感じました。

# サイドイベントの開催

イノベーションコミュニティ CIC および  
木材ベンチャー企業 株式会社森未来との連携したサイドイベント

虎ノ門ヒルズにある日本最大級のイノベーションコミュニティCIC  
及び日本の森林・木材ベンチャーの草分け的存在である森未来社と連携し、  
時間枠の木づかいシンポジウムのサイドイベントをパネルディスカッション形式で  
3回に分けて行なった。述べ200名ほどが聴講した。

サイドイベントの映像アーカイブは、木づかいシンポジウムのWEBサイト上で  
公開している。

- 時期：2023年3月
  - 開催方法：現地会場とオンラインのハイブリッド開催
  - テーマ：
- 第一弾：世界の環境政策・脱炭素の潮流と日本の林業・建築：  
パリとシアトルと東京から
- 第二弾：森林・木材ベンチャーは脱炭素時代の牽引力となるか：  
造林・建築・サプライチェーン
- 第三弾：ESG投資と日本の森林・木づかい：  
森林ファンド、そして木造建築の投資



**世界の環境政策  
脱炭素の潮流と  
日本の林業・建築**

3月9日17:00@ CIC 虎ノ門

PARIS SEATTLE TOKYO  
OECD 外務省日本国総領事館 建築家

OECD パリ本部 環境局政策アナリスト 山崎翔  
外務省日本国総領事館 領事 本田知之  
株式会社ADX 代表取締役/建築家 安齋好太郎

VENTURE CAFÉ TOKYO

Sustainable Forest Symposium 2022

木づかいシンポジウム SideEvent  
林野庁補助事業



**森林・木材ベンチャー  
は脱炭素時代の  
牽引力となるか**

3月15日18:00@ 森未来

造林 建築 サプライチェーン  
青葉組 VUILD 森未来

株式会社GREEN FORESTERS 青葉組 取締役COO 中間 康介  
VUILD株式会社 取締役COO 井上達哉  
株式会社森未来 代表取締役 浅野純平

Sustainable Forest Symposium 2022

木づかいシンポジウム SideEvent  
林野庁補助事業



**ESG投資と  
日本の森林**

森林ファンド、そして  
木造・木質化建築の投資

3月15日19:00@ 森未来

株式会社日建設計 大庭拓也  
株式会社GOYOH 伊藤幸彦  
有限責任監査法人 トーマツ 鈴木秀明

Sustainable Forest Symposium 2022

木づかいシンポジウム SideEvent  
林野庁補助事業

# サイドイベント第一弾

## 世界の環境政策・脱炭素の潮流と日本の林業・建築：パリとシアトルと東京から

■日時 | When :

MARCH 9, 2023 | 17:00 – 18:00

■現地会場 | Venue :

CIC Tokyo (東京都港区虎ノ門1-17-1 虎ノ門ヒルズビジネスタワー 15F)

オンライン ハイブリッド配信

山崎 翔

経済協力開発機構 (OECD) パリ本部  
環境局政策アナリスト

本田 知之

外務省在シアトル日本国総領事館 領事

安齋 好太郎

株式会社ADX 代表取締役兼 / 建築家

モデレーター：高橋 ひかり 株式会社Spero 代表取締役



OECDの環境アナリストを迎え、世界の環境政策や脱炭素の潮流について、話を聞いた。さらに、外務省の日本国領事館の領事より、米国において、脱炭素の動きがもたらしている木造・木質化、森林業界への影響を聞いた。さらに、木材・森林のエキスパートでもある建築家を交え、グローバルなうねりの中で、日本の木造・木質化の課題と未来について議論した。

# サイドイベント第二弾

## 森林・木材ベンチャーは脱炭素時代の牽引力となるか：造林・建築・サプライチェーン

■日時 | When :

MARCH 15, 2023 | 18:00 – 19:00

■現地会場 | Venue :

森未来オフィス（東京都港区東京都港区芝5-27-6 泉田町ビル6F）

オンライン ハイブリッド配信

中間 康介 株式会社GREEN FORESTERS 青葉組 取締役

浅野 純平 株式会社森未来 代表取締役

井上 達哉 VUILD株式会社 取締役COO

モデレーター：高橋 ひかり 株式会社Spero 代表取締役



森林・木造業界の川上で造林ベンチャー、川中にて木材のサプライチェーンに切り込む木材流通ベンチャー、川下で建築の民主化に挑む木造建築ベンチャーをパネラーに迎え、各ベンチャーが着目した業界課題と、現在の挑戦を聞いた。

さらに、日本の森林や木材利用がいかなる価値を見出していくべきか議論した。

# サイドイベント第三弾

## ESG投資と日本の森林・木づかい：森林ファンド、そして木造建築の投資

■日時 | When :

MARCH 15, 2023 | 19:00 – 20:00

■現地会場 | Venue :

森未来オフィス（東京都港区東京都港区芝5-27-6 泉田町ビル6F）

オンライン ハイブリッド配信

大庭 拓也 株式会社日建設計 Nikken Wood Lab

伊藤 幸彦 株式会社GOYOH EasyGo 代表取締役

鈴木 秀明 有限責任監査法人トーマツ シニアスタッフ

モデレーター：高橋 ひかり 株式会社Spero 代表取締役



大手で多くのクライアントと木造木質化にチャレンジする建築家、海外の富裕層を対象とした不動産ビジネスを手がける起業家、監査法人にて森林ファンド設立を目論むコンサルタントと、日本の木造建築と森林の投資価値について、徹底議論した。

カーボンオフセットの文脈は、森林や木造建築にどのような影響を与えているのか。そして、大型建築の木造木質化の黎明期である今から、未来はどのように変わっていくのか、ディベートした。

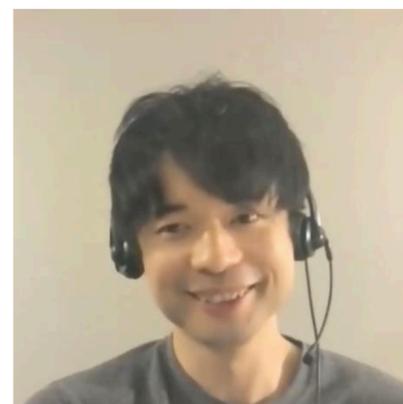
# サイドイベント登壇者プロフィール1



山崎 翔

経済協力開発機構（OECD）  
パリ本部 環境局政策アナリスト

東京大学工学部卒。日本にて監査法人トーマツおよびBain & Company（経営コンサルティング）勤務の後、ハーバード大学ケネディ行政大学院にて公共経営学修士、MITスローン経営大学院にて経営学修士課程を修了。2022年より経済協力開発機構（OECD）環境局に勤務し、OECD加盟国の環境保全成果レビューに取り組む。



本田 知之

外務省在シアトル  
日本国総領事館 領事

熊本県出身。林野庁に入庁後、北海道知床での魚道建設や森林の経営保全、森林・林業特化型のビジネス共創プログラムの立ち上げなどを行う。「人をつなぐこと」を国をまたいで実践してみたいという思いから、在シアトル日本国総領事館に出向し、日系企業の米国でのビジネス展開支援や日本文化発信などを担当。公務のかたわら一社Pine Grace理事として北海道の森林資源のアップサイクルに取り組む。



取締役COO 中間康介

株式会社GREEN FORESTERS 青葉組

九州大学大学院森林資源科学専攻修了後、（株）野村総合研究所にて官民連携プロジェクトの制度設計等を担当。その後独立し、介護関連ベンチャーの立ち上げを行った後、（一社）社会実装推進センターを創業し、経済産業省、林野庁等のベンチャー支援政策のコーディネートに従事。並行して植林ベンチャー（株）GREEN FORESTERSを創業し、自らも取締役として事業開発を担当。



浅野 純平

株式会社森未来 代表取締役

千葉県出身。工業高校卒業後、バンドデビューを夢見て上京。夢破れIT企業に転職する。営業職やマネージャーとして活躍しながらも、ITを活用して社会の役に立つ事業を起こしたいと考えていた。そんな中、林業や木材業界は、IT化が遅れていたこと、同産業の活性化は地方創生という国の施策にも合致することから、使命感を感じ起業を決意。林業の現場を見るため、東京都の秋川木材協同組合へ飛び込み入社する。1年間の修業を経て、2016年に森未来設立。

# サイドイベント登壇者プロフィール 2



井上 達哉  
VUILD株式会社 取締役COO

林業プロデューサー、VUILD株式会社取締役COO。岡山県西粟倉村にて(株)西粟倉・森の学校の立上げから参画し、地域内木材流通の構築や間伐材を使った商品開発などに携わる。2017年まで代表を務めた後、2018年よりVUILDに参画。VUILDでの活動の傍ら、木製足場の開発や山主コミュニティの立ち上げなど、林業や国産材の新たな可能性を探る取り組みを続けている。



大庭 拓也  
株式会社日建設計  
Nikken Wood Lab

ウッズケープアーキテクト。1982年福岡県北九州市生まれ。福岡大学建築学科卒業、東京工業大学大学院建築学専攻修了後、日建設計に入社。新領域開拓部門イノベーションデザイングループ、Nikken Wood Lab、ラボリーダー。テレビ東京「未来シティ研究所」、BS-TBS「宇賀なつみのそこ教えて!」、TBSラジオ「ACTION」など多数のメディアに活動が取り上げられる。



鈴木 秀明  
有限責任監査法人トーマツ  
シニアスタッフ

民間企業において会社保有山林のアセットマネジメント・林業業務全般に従事した後、デロイトトーマツコンサルティング合同会社勤務を経て現職。林業分野以外でも道路・港湾等の物流分野におけるDX支援、地方創生分野におけるパブリックセクター向けコンサルティング業務、民間企業のサステナビリティビジョン検討支援といった業務に従事した経験を有する。



伊藤 幸彦  
株式会社GOYOH EasyGo  
代表取締役

早稲田大学高等学院を中退後、バックパッカーとして世界70か国以上を長期旅行し、2006年にNYにてホスピタリティ投資会社を起業。2008年(株)アスタリスクを日本に設立し、国内・海外の機関投資家や超富裕層のクロスボーダーなホテルや不動産、ファンドへの投資アドバイザリー業務を行なう。2016年～2020年までの間、世界的不動産ESGリーダー。大手生命保険会社などの機関投資家に不動産ESG投資のマーケティングを行う。

# なぜ人は「木」をえらぶの？

## 木づかい促進ムービーの制作

シンポジウム終了後も、木づかい促進の機運醸成に寄与するため、木づかい促進ムービーを制作した。木づかいシンポジウムのパネリストを含め、森林・木材・建築業界に関わる川上から川下まで、7事業者の協力を得て、撮影した。ドローンも活用した。【なぜ人は「木」をえらぶの？】というタイトルで、約10分間の作品で、WEBサイト上で公開している。





---

株式会社Spero